

一般発表募集のご案内

応募締切日 2/3(月)

日科技連 RMS  
https://www.juse.jp/rms/

# 第54回

# 信頼性・保全性・安全性シンポジウム (54RMS)

—信頼性・保全性・安全性にかかわるすべての方に役立つシンポジウムです—

日程 2025年7月17日(木)~18日(金)

開催形式 オンライン・ライブ配信

The 54<sup>th</sup> Symposium on Reliability, Maintainability and Safety

## 一般発表募集中! 応募締切 2/3(月)!

信頼性・保全性・安全性分野のビッグイベントで、ご自身の研究成果やご経験を発表してみませんか?

聴講者による一般発表の評価は高く、ここでの発表は、発表者に大きな自信を与え、信頼性・保全性・安全性にかかわる技術者のステータスになるとの評判のシンポジウムです。発表者からも「発表してよかった」とのお声をいただいています。本シンポジウムでの発表は、情報提供をするだけでなく、違う視点からの意見やアドバイスが得られ、新たな試みや業務改善につながると確信しています。信頼性・保全性・安全性技術を高めるために、邁進・活躍されている皆様の工夫や成果を、ぜひご応募ください。

応募

11月中旬~2/3

レビュー結果通知

4月中旬(予定)

発表

7/17 or 7/18

※発表日時はテーマ等によって組織委員会で決定します

応募方法、詳細スケジュールは、Webサイトでご確認ください

<https://www.juse.jp/rms/>

### 1. アブストラクトで応募できます

本シンポジウムは、アブストラクトで応募でき、本文を書く前に採否が決まります。また、アブストラクトの査読結果は産・学の専門家によるコメントを付けて投稿者に通知いたしますので、その後のフルペーパー執筆の参考になりますし、もし採用されなかったとしても、今後のステップアップに活用できます。

### 2. スライドのみでも投稿できます

投稿区分として「研究論文」と「事例報告」の2つを用意しています。「事例報告」についてはスライドのみで投稿できます(いずれもアブストラクトの段階で採録のための査読を行います)。

### 3. 発表者は特別料金でご参加いただけます

発表者ご本人に限り、一般参加費 41,800 円のところ、特別参加費 5,500 円でご参加いただけます。また、共同執筆者の方は、発表 1 件につき 1 名様のみ 19,800 円でご参加いただけます(価格はいずれも税込)。

### 4. 発表者同士の交流が図れます

シンポジウム両日「ネットワーキング」を開催!リアルなコミュニケーションの場をご提供します。意見交換、情報収集にご活用ください。

※交流会は発表会場(日科技連・東高円寺ビル)で行います。「発表者×共同執筆者×司会者×組織委員」限定のイベントです。

日本語の投稿/発表を募集します。

## 参加者募集は2025年4月スタート!

—本シンポジウムは社員教育にも最適です—

組織の信頼性・保全性・安全性の意識向上、技術者・研究者の技術教育にご活用ください

参加費(税込):

■ 1 名分 (1ID で 1 名視聴可)

一般	41,800 円
日科技連賛助会員/後援・協賛学協会会員	39,600 円
発表者(本人のみ)/学生	5,500 円
共同執筆者(発表 1 件につき 1 名まで)	19,800 円
2025 年度 RQ 研究会 参加者	19,800 円
「信頼性技術者」登録者	19,800 円

■ 200 名まで\* (1ID で 200 名まで視聴可)

大口参加(一般・日科技連賛助会員ともに)	440,000 円
----------------------	-----------

■ 1 口 5 名まで\* (1ID で 1 名視聴可、5ID 配付)

小口参加(一般・日科技連賛助会員ともに)	125,400 円
----------------------	-----------

※適用範囲は同一法人格かつ同一窓口から一括でお申込の場合に限ります。

主催 一般財団法人日本科学技術連盟

開催日程、開催形式、募集内容、募集スケジュールは都合により変更が生じる場合があります。

## 募集期間

2024年11月中旬～2025年2/3(月)

Webの申込フォームからお申込ください  
<https://fofa.jp/juse/a.p/269/>

## 募集内容 ※日本語の投稿/発表を募集します。プログラムの編成により発表時間は変更になる場合がございます。

「研究論文」「事例報告」の2カテゴリの投稿を募集します。

「研究論文」「事例報告」ともに発表時間は30分(発表20分、質疑10分・予定)です。

研究論文(論文で提出)	新たな提案、既存の方法・技術の実践などを報告する論文です。
事例報告 (パワーポイントスライドで提出)	実践活用事例、ノウハウなどをまとめた発表です。現在取り組んでいる活動の速報、問題提起等もお待ちしております。原稿の形式は、スライド形式のみです。

## 募集分野と内容例 (発表内容は以下1～6の分類及び内容例を参考にしてください)

### 1. マネジメントと組織

- 品質保証(体系)や信頼性・保水性・安全性管理におけるあるべき姿の提案や、それらを実際のプロセス改善に適用した内容。
- 信頼性・保水性・安全性管理を推進する組織の問題点やその克服を目指した提案。
- リスクアセスメントやデザインレビューなど、管理技法そのものの改善提案や、具体的なプロセスへの適用により効果が表れた事例。
- 新規産業・事業分野における信頼性目標を含む信頼性プログラムの新しい考え方や立案方法の提案。

### 2. 設計創りこみ技術

- 新しい信頼性・安全性の設計技法の提案、例えば、新しいモデリング手法やシミュレーション技術に基づく最適設計の技法を、実際の製品開発や工程設計・管理、さらには設置・運用に適用した内容。
- 信頼性・安全性の設計技法を複合的に実際のプロセスに活用することにより、新しい考察や実際の効果が認められた手法の提案や事例紹介。
- ストレスを可視化する計測・シミュレーション技術を開発することにより、厳密な寿命設計が可能となった事例。さらにはその技術の応用事例。
- 様々な電子制御システム(自動車、情報・エネルギーインフラ、交通など)における、高信頼性設計技術、機能安全・SOTIFなど安全性設計技術の開発。
- 保全作業を考慮した保水性設計や長期使用を前提とした安全設計の提案。
- 高度なDXデジタル設計におけるシミュレーション技術群の活用、提案。
- ハードウェアとソフトウェアの協調設計を応用することにより、従来よりも大きなシステムの枠組みで、最適化を実現する技法の構築や適用事例。

### 3. 運用支援技術とヒューマンファクター

- ドローンを利用したモニタリングなど、新技術による状態監視保全の提案や事例。
- エラープルーフ設計など安全性を阻害するヒューマンエラーの防止技術や、ヒューマンマシンインタフェースの改善に関する内容。
- 運用担当者や保全担当者、使用者への新しい教育、訓練方法の提案。
- 運用支援を通して担当者の安全対応能力の向上を目指した設計の工夫や事例。
- ヒューマンエラーなど人の要素を含む全体システムの信頼性予測や設計手法。

### 4. 信頼性・安全性試験と故障・事故解析

- 新たな故障解析技術(新原理、分解能・精度向上等)の開発・提案に関する内容。若しくはその技術の応用事例。特に集積回路における故障位置の検出技術やマイクロな領域における観察・分析技術の応用。
- 新たな信頼性試験技術(複合ストレス、再現性大、短所要時間など)の開発・提案に関する内容。若しくはその技術の応用事例。
- 従来の信頼性・安全性の試験・測定・解析技術を複合的に活用することによる、当該のシステムやデバイスにおける不具合の新たな考察事例や、実際の改善事例。
- システムやデバイスにおいて、新たに発見・解明された故障メカニズムや安全事故発生メカニズムの解析事例。
- 従来の技術に比べて、品質工学等を用いることによる信頼性の最適化アプローチ法や簡易アプローチ法、さらには信頼性試験方法・条件の探索。
- ソフトウェアとハードウェアを含むシステムに関する安全性及びリスクの妥当性確認、さらには適合性確認事例。

### 5. 信頼性・保水性・安全性に関するデータの利活用

- 少数データを解析するための統計手法など、新たな確率・統計モデルや解析手法の提案、あるいは有効性の実証に関する内容。
- 理論的に統計手法を検証した事例や、それらを基に各種統計解析を実際の問題に適用する有効性を証明した事例。
- 市場、もしくは工程における信頼性・保水性データの収集、データベース化、解析方法や積極的な活用に関する新たな提案、それらを実際の開発・生産の改善に適用した事例や統計的に検証した事例。
- ビッグデータ・AIの利活用により信頼性・保水性に関する新たな知見を得た事例。それらを基にプロセス改善に繋げた事例。

### 6. 信頼性と関連の深い分野

- 社会インフラ、建築・建設分野、素材・材料、環境保全、エネルギーなど、多様な応用分野での研究発表を歓迎する。

上記以外の、信頼性・保水性・安全性の向上に寄与する考え方、理論、応用事例、手法など

## 発表者の声、上司の声

(2024年11月現在)

本シンポジウムでは、一般発表(研究論文/事例報告)の中で、内容の優れた発表を選考し翌年のシンポジウムで表彰いたします。  
第53回シンポジウム各賞受賞決定 <https://www.juse.jp/rms/53/award/>

### 発表者の声 白石 英樹 氏



トヨタ自動車株式会社 Mid-Size Vehicle Company  
MSプラットフォーム開発部 PF性能開発室 主任  
(第53回RMS優秀論文賞受賞)

近年、複雑化する自動車設計において、車両の複数性能の成立範囲を効率的に導出するセットベース設計法を検討してまいりました。この成果が今回の受賞につながり、大変光栄に思っております。本技術は自動車業界にとどまらず、他の業界にも拡張可能であるため、当シンポジウムで発表させていただきました。この発表が、信頼性や品質向上に少しでも貢献できることを願っています。また、発表を通じて幅広い業界の研究者から質問やコメントをいただいたことは、今後の研究活動を進める上で非常に有益でした。発表後には参加者との交流会もあり、多くの方々と直接お話しできたことは、大変貴重な機会でした。発表を通じて、自身の取り組みの整理やプレゼンテーション能力の向上、社外の方との交流など、さまざまな成長につながる機会があると実感しています。参加を検討されている方々には、ぜひ参加をお勧めいたします。

### 上司の声 野口 康人士 氏

トヨタ自動車株式会社 Mid-Size Vehicle Company  
MSプラットフォーム開発部 PF性能開発室 グループ長



白石さん、この度は「優秀論文賞」の受賞、誠にありがとうございます。日本科学技術連盟主催の信頼性・保水性・安全性シンポジウムでは、普段接する機会の少ない幅広い研究機関や業種の専門家の方々から、多くの刺激やフィードバックを受けられたことと思います。また、このような場で自身の取り組みやプレゼンテーションが評価されたことは、大きな自信につながったことでしょう。シンポジウムでの発表は、白石さんの成長や技術の発展に寄与するだけでなく、私たちのチーム全体にとっても大きなプラスになると確信しています。今回の経験を糧に、今後も新たな挑戦を続け、技術力を一層高めていかれることを期待しています。

## お問合せ先

一般財団法人日本科学技術連盟 第54回信頼性・保水性・安全性シンポジウム担当

電話 03-5378-9850 E-mail rms-sympo@juse.or.jp URL <https://www.juse.jp/rms/>